

氏 名：田中 利枝

学位の種類：博士（看護学）

学位記番号：甲第184号

学位授与年月日：2020年3月10日

学位授与の要件：学位規則第4条第1項該当

論文審査委員：主査 大田 えりか（聖路加国際大学教授）

副査 堀内 成子（聖路加国際大学教授）

副査 江藤 宏美（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科教授）

副査 八重 ゆかり（聖路加国際大学准教授）

論文題目：Evaluation of an Educational Program for Obstetric Nurses and Nurse-midwives: Early Essential Care for Breast Milk Expression for Mothers of Preterm Infants（早産児を出産した母親へのEarly Essential 搾乳ケアに関する看護者向け教育プログラムの評価）

博士論文審査結果

日本では、出産数は減少傾向にあるが、早産児の出生は増加傾向にある。早産児を出産した母親への搾乳ケアへの支援は喫緊の課題である。本研究は、早産児を出産した母親への**Early Essential** 搾乳ケアに関する教育プログラム実施による看護者の知識の変化を、プログラム実施前後の知識の得点を比較することにより検討することを目的とした。

予備研究として、早産児を出産した母親の産褥早期の母乳分泌を促す搾乳ケアの文献レビューおよび産科病棟における早産児を出産した母親の母乳分泌を促すケアの現状と課題に関する質的研究を実施した。

本研究では、産科病棟で働く看護者36名を対象に、NICUに入院した新生児のための母乳育児支援ガイドラインにおける看護者の役割、早産児の母親の母乳分泌を促すために必要なケアについての教育を1群での前後比較研究として行った。看護者の知識の平均得点は、**pre-2**に比べて、**post-1**および**post-2**において得点が有意に上昇した。**post-2**の得点は、**post-1**に比べて、低下する傾向にあった。一方、母親の搾乳実施状況および看護者によるケアに対する認識の改善はみられなかった。

審査では、修正点として、サンプルサイズの計算の根拠や用語の操作的定義を加筆すること、対照群をおいた比較研究ではなく、1群での前後比較研究とした理由を説明すること、母親の産後の母乳分泌量を表に示すことなどが指摘された。これらを検討した上での修正が確認され、本教育プログラムを実施することにより、看護者の知識、ケアに対する姿勢、ケアの実施状況の得点が増加したため、本教育プログラムの効果が示唆された点で

独創性があり、臨床現場において搾乳ケアに関する最良のエビデンスを実践することが期待でき、看護・助産の発展に広く寄与する研究として高く評価された。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。